

米養士もろ

NO2

昭和52年3月
日榮山梨果支部

私の主張

(社) 日本米養士会 山梨果支部

藤 卷 一 雄

米養士法第の改正問題に本会が取組みとは、
じめてからすでに久しいが、実現までには、
まだかなりの時間がかかるとは思われる。

この問題は、毎年の通常総会でも取り上げ
られ、また本会の理事会等でもその都度論議
されている。

しかしながら、組織の末端の一人一人の会
員である大多数の米養士自身は、一体この問
題をどのようには捕えているのか。私自身は甚
だ疑問に感じている者の一人である。

個々の米養士自身が本当に自力自身の業務

の中に、仕事を通じ、或は職場の中での他の
職種の人達との交流の中から痛切な願いとし
て、法改正の実現を固唾をのんで待ち望んで
いるのか。私の実感からすれば、たゞ観念的
に、本部執行部が取り上げている問題でもあ
り、支部段階でも支部長以下役員がこの問題
に熱心に取り組んでいることなので、「まあ一
悪いことではあるまい、法改正が実現すれば
我々にも多少良い影響が期待できる」程度に
しか認識していないのではなからうかと思われ
てならない。

個々の米養士の意見など聞くと、「給料が
安すぎるし」、「待遇が悪い」、「米養士の仕事
が正しく評価されない」、「他の職種との比
較の中で昇進、昇格なども遅い」。なにと愚
痴めいたことを聞くことはあるが、これらの
問題はそれ以上には発展していかない。「こ
れらの点を是正していくにはどうしたらいい
のか」、「何とかならないものなのか」、「我
々が毎日職務の中で精一杯の努力をしている

にも拘らず、他の職種の人達に比較すると、給料も安く、社会的な評価も低い。一体これは何故なのだろう。というような悩みは多かれ少なかれ多くの栄養士が考えていることではあろう。

社会一般は残念な事に栄養士と調理師の區別すら出来ない。栄養士は高校を卒業して短大へ二年間通いさえすれば簡単に免許証をくれば職業で、栄養の専門家というよりも、家庭料理をや、系統的に勉強して来た程度の認識しかないのである。栄養の専門家と自負しているのは、栄養士自身だけなのかも知れないのである。法改正問題は本部役員や支部の支部長以下運営委員に任せておいて、一人一人の栄養士自身は傍観者の立場にいるのではないか。これではいつになっても法改正問題は彼らが考えているような形で実現は出来ないとい私は考へる。

なるほど、我々仲間の中にも社会的に立派な地位に立っている人、堂々の場で、或は経

済界で、行政の場で、医療の場で等々、医師、薬剤師等の医療の専門家グループの中でも指導的役割を果している人など私は多くの先輩や同僚を知っているが、これらの人達は、本人自身のよさに超人的な刻苦勉励によって勝ちとった地位であり、立場であって、私のような平凡なオースが持ち合わせていない者には到底出来ない相談である。いや、私を含めて大多数の栄養士諸氏がそうであらう。

では、本当に栄養士の社会的地位の向上や身分の確立を図るには、どうしたら良いのか。栄養士の集団、日本栄養士会は我が国唯一の栄養士の団体であるが、先づ考へる団体でなければならぬ。栄養士に関する問題すべてをみんなで考へよう。何故か。これが出発点だからである。

次に、仲間同志でこの問題を語り合おう。大いに論じ、大いに諷して問題を掘り下げて行こう。法改正問題は、栄養士一人一人に関わりを持つ重要な場である。もっともとい

○十二月一日、反省会、懇親会（会長、副会長参加）

○十二月十三日、集団給食施設指導について討議

○一月十一日、各種講習会に使用する献立集作成

○二月五日、六日、成人病の栄養相談（岡島レポート）

○三月二十八日、保健所の栄養業務検討

栄養改善推進員養成のための指導用資料作成

地域における栄養改善推進

活動の拠点としての活動家

リーダーである栄養改善推進

員の養成にかゝる「テキスト」

と、その解説書ならびにこの

養成講座をはじめ、多くの講

習会にも活用できるような、

「養成講習用献立集」「調理

実習用献立集」を編成作成し

た。このことにより、養成講

習会は内容的に統一化、標準

化され、県下共通した体制で

実施されることになり、期待

されている。また、献立集は好

みにより抜き出して使用でき

るようになっていくので、各

保健所、市町村の栄養士から

要望がわいてくる。

編集後記

○二十四番の風吹きつくし、

梅咲き、桃咲き、桜咲き、

春風駉蕩として春の海の如

く、人は花に迷われ、花に

迎えられる自ら長閑なり。

春になると思いたす文章の

一節ですが、こんな「余裕

のある気分をほしい会員諸

氏の目線だと思えます。

○本紙も仲々軌道にのらない

感がいます。発行の意義は

創刊号で支部長が述べてお

うられました。全会員がご理

解下さい。

○やつと二号をお届けできる

運びとなりました。

ご協力下さった方々、ご注

意下さった方々に厚くお礼

申し上げます。

五十二年度にご期待下さい

投稿のお願い

論文、リポート、ご意見

随筆等、編集部へお寄

せ下さい。



の困難を考えてみようではないか。

法改正の重要な項目の一つに専門性の確立

り、法改正実見への極めて重要な手立てとして
あると考へる。

という事柄がある。これは業務独占にも通じ
ることである。こと「食」に關することは栄養
士の仕事でなければならぬが現状はどう
か。薬局で薬剤師が、市町村や事業所施設で
保健婦や衛生管理者が、病院や診療所では医
師や看護婦が、時には全くの素人が栄養の指
導を平気でやり、書物に書き、堂々と講演を
し、テレビで栄養の専門家然として放映され
ていくではないか。このようなことがよかり
通り、放置されていくと、今目の日本の
食生活、栄養問題の混乱の原因があると私は
思う。この現象の責任は一体誰かと云いたい
。考へ、論議するだけでは問題は解決しない
。行動する、ことだ。社会的地位の確立を法的
に明確にするための運動は勿論大切なことで
あるが、これと併行して、栄養士自身もこと
行動しよう。社会活動への積極的参加は、栄養
士の評価を大きく変えて行く最も近道であ

先般実施した成人病予防周囲の一環として
行った成人病（特に高血圧、心臓病）栄養
相談事業なども、そのよい例であるが、参加
者の募集に當つては、病態栄養技術講習会と
学科の受講も余すところ十二時間ないし十五
時間で終了するので、この講習会の集大成も
兼ね受講の成果をこの機会に発表していただ
けたいと思ひ、病態栄養技術講習会の受講者の
みを対象とし、講習会場でこの話をすること
にし、皆に話をすべく前には、余り多数の希望
者があつても、人数を制限し、人選するのバ
大変なことをたうと考へていたところ、案
に相違して人数が揃わず、半ば強引に押しつ
けてお預けしなければならぬことになり、
やつと人数を整えらうとがてきたが、この一
事をもつてしても、栄養士自身の行動力の弱
さが端的に指摘できよう。参加された方々は
その前の週の日、次の週の上曜に病態

栄養技術講習会に出席しながらの間に決った
上、目の貴重な時間を割いての参加で、心か
う敬意を表するものである。

会の組織として、七つの職域部会、八つの
分会が支部組織として存在することは、会員
である栄養士は承知しているであらう。とこ
ろがこの職域部会や、分会の活動が極めて不
活潑で貧弱である。その原因は一体何なのか
・いろいろの意見を聞く。曰く、「私の日常
業務とは余り関係ないから、だから」欠席す
る。「仕事に追いついて忙しくて参加で
きないから」等々理由はいろいろあるが、要
は、その時のテーマが全く自分自身に関係の
ないものなのか、どうか。ということなのだ。
全栄養士の問題は、個々の栄養士あるいは
自分自身の問題でもあるという認識の欠如に
原因があるのではないか。

組織強化長期計画案なども、一昨年の
仙台総会で提示され、昨年の長野総会ではそ
の具体的計画案が示されたが、審議未了で継

続審議となっていることは会員諸氏は充分に
承知されていることと思う。さてその組織を
強固にする方法は只一つ、職域部会、分会の
行事に全員が積極的に参加し、社会活動と強
化していくことだと私は考えている。

社会活動の活潑化は、栄養士への正しい社
会的評価への道となり、活動を促すのでお互
の連帯意識が、組織強化につながり、引いて
は栄養関係法等の改正の起爆剤ともなり得る
大きな力を結集することも決して夢ではない
と思われてならない。

一人一人が考え、行動する栄養士に変身し
よう。これが実現したときこそ、法改正は現
実の問題として大きくクローズアップされ、
世論もこれを支持して突進するものと信じてい
る。

古人曰く、「天は自ら助くる者を、助くし
と。」



を得る。「温故知新」題に入
れて編みられてゐるつとよく
見かけると、味がい深いことば
である。先人の足跡、業績か
ら新しい方向づけを編みだす
栄養改善の仕事にも、厂史があ
る。そこで「山梨県栄養改善
のあゆみ」をまとめたとい
うことを提案したい。

このことは一人や二人の手
にはおえない大きな仕事とな
る。まず編集委員会の手によ
って情報、資料収集から始め
なければならぬ。各事
向部門をまとめて分担し、まと
めていくという協同作業、十
ムワークが必要となる。
「あゆみ」といへば多くが、こ
回想的なことになるが、こ
れを足場にして、今後の栄養

改善業務の方向づけを行なう
ことが、できるところに大き
な意義がある。

本会で取組んでゐる栄養士
の身方問題もある現今、栄養
士の社会的評価を高めるため
にも、そしてまた山梨県では
厂史約栄養改善の記録をみる
ことができないこの時に、是
非とも実現させたい。

(甲府保健所)

会費のお願い

昭和五十二年度会費五〇〇
円を至急納入下さい。
期限は三月三十一日とな
つております。
部会長、分会長、事務局
で取扱います。

会計

「ふと」思つた、と

学校給食部会 板植敏子

「さあ、はんですよ」私の
大きな声で、家族四人の食
事が初まる。共稼ぎの私共は
とって一日のうちで、一番く
つろいだ楽しい時間なのだ。

「今日の給食はおいしいが、た
松風焼の味噌味という胡麻の
がおりというなんともおいし
かった」と娘が話し出す。す
ると息子も負けずと「僕等の
給食はカレーライスを、おか
わりがほしかったなあ」と自
分達のおひるの自慢をはじめ
る。娘はとつても息子にとつ
ても、自分達の学校の給食は
常に最高であつてほしいとい
い、私は二人の話に相手を打

ちがう。一日を思い返して、
みる、学校生活も戦後三十年
を経過したとはいえ、その一
歩は浅い。ましてや学校教育
の中における給食の仕事の位
置はまたまた不安定で、職場
の中でも確実に認められてい
ろとは言い切れない。こんな
中で食べ盛り、育ち盛りの生
徒のための献立づくり、栄養価の
検討、経費の計算、物資の発注と
費用も含めて追われる毎日の
中で調理の指導は適切であっ
たか、食事を一個の品物のよ
うに扱ってはいなかったか、ま
うりと考へておいてみる。

栄養と経済のみに基づかれて
味、色彩などに無理がなかつ
たなどなど……

私が常に自問にふい問かき
ていたことは、「生徒は違ふ
ことが出来るのだ」という
ことだ。私達は毎日の食事と
一生懸命作る。そして自分達
なりに納得して食事をあて
いる。だから食べ残しが出る
と、とても残念に思い、今日子
供達はとても喜んでくれたと非
難する。しかし生徒の立場か
らは、やはり食べさせられ
のた。さういふものでも、食
べにくいものでも、それ以外
に食べられないはない。食べな
ければ家に着くまで空腹をか
えていなければならぬ。

給食の中に入っている
ねき、大きく切つてあつたの
で食べられなくて、鼻をつ
まんで目をつむつて、のみこ
んだよ、もう少し小さく切つ
てあげれば知らない間に食べる
んだけどね」と小学生時代の
給食の思い出を話してくれ
卒業生がいた。学校では食べ
るが、家では食べない食品と
して、やり玉にあけられろ
うか、人参、ねぎ、これらもや
はり小さく切れば食べられ
のに、食べ残されては、栄養
のロスばかりでなく経費も大
きく控えられることになる。
私達の仕事の才一は正しい
栄養の指導だ、しかしいくら
食物をまんべんなく食べても
うけなければ指導も何もない。
正しい組み合わせ、親切な調
理の中に各食品の働きと教
正しく食べることの大切さを
教へる、このことのくり返し

が、やがて身につき、自方室の食べ物が正しく進むようにはなるのではないか。

ほんやりーていると、お母さんおかわり」と息子「辛にさあまたふーたもカンバラなくぢやあと思うこの頃だ。

(石和申字夜)

北里病院を見学して

運営委員 深沢清子

医療部会本年度の事業計画の一環として、十月二十六日北里病院を見学した。

幸い晴天に恵まれ、部会一行二十名余は、貸切バスを仁立て、大病院の名前に期待をかけたが、中の人となつた。住居は窓外の風景に目もくられ、所々かまえてお、た

かりように、話題は病院給食のこと、平内は忍々情報交換の場と早速り、次第に発展、食事費のこと、造折食の問題、調理従事者の不足、労務管理の事など、一同生き生きと目が輝き、熱っぽいやりとりが交わされて、三時間余りの道程も、あつという間に過ぎ北里の門を潜った。

「大きいなあ」の第一印象、診療案内が足すつゝ、診療部内科、外科、栄養科と、栄養科が診療部に所属していることを快く感じながら案内室へ、スラウドによる説明は行きとどき、院内の組織、栄養科の基本方針、業務内容、コングレエーターを活用した事務部内の流れ、厨房設備器具、

勤務体制、栄養相談の現状等十分理解するこゝができた。厨房の見学は禁じられており、特別の計らいで三名が許されたが、完備された設備、徹底された管理には、咄々感嘆するばかり、特に感じられ、大英を記すと。

(1) 栄養科のこと
地下一階 面積一〇〇〇平方
方米、厨房、調乳室、カンフ
アレンスルーム等、中央配膳に
より完全盛付けを行つてい
る。栄養相談、病棟巡回指導
が、水、治療室に重宝が
かかれていた。なお病床数一
〇〇、褥期ベッド七〇〇、調
乳七〇〇。本、栄養科職員六
名。

(2) 給食時間が適正である。

朝七時 昼十二時 夕六時

(6) 専任職の養成

支部だより

(3) 温食給子について

患者個々に保溫ボックスを使

用していること。

(4) 衛生管理

OP室についてく、洋衛生地区
とされ、全面の取扱い、清場

整頓の徹底、取扱いのユニポー

ム、帽子、靴、などもスマー

トで美しく清潔、効動しやすい

いものが送達され、下着類の

教育まで力が入りうれていた。

(5) 旧々のオーガー

患者個人に対する医師のオ

ーガーは徹底し、大変複雑で

あるが、コンピュータ化さ

れ、治療と検査が一体とな

った給食体制を知ることができ

た。

調理師・作業員の四人で一千

ムがつくられ、それぞれ

疾病別に治療食の作業責任が

とらわてゐる、并概要があるが

医療の一環とした病院給食に

満身の努力が伺えた。

この北里病院を見学し、「大

病院だから」「我々には高額の

の花」という言葉で片付けな

いで、「小さいながらも心の通

った治療食」をモットーに、

一層努力をすよと、今

後医療の主軸になるであらう

この仕事に、期待し努力して

いきたい。

(北里病院)

長田正五副支部長

知事表彰をうける

昭和五十一年度の栄養改善

功労者表彰式が三月八日県庁

でおこなわれ、了。

この制度は昭和五十一年度

制定され、さきに深井支部長

が表彰されております。

表彰制度の説明すると、栄養士として

栄養改善業務の才一線に多年

従事し、県民の健康づくりに

貢献し功績があった者、栄養

士の資質向上、組織活動を通

じ、栄養士制度の発展向上に

功績が特に顕著である者、対

象として、功績に報いること

もに、栄養改善活動に対する

意欲を高め、県民の健康づく

くりと推進する目的のもので

(1) 栄養関係業務に十年以上

従事した者

(2) 満四十五才以上である事

が条件となりております。

▼歯と健康のための栄養相談

ムシ歯予防巡回行事の一つと

して六月五日歯科医師会と

共催での交テパートを会場に

相談を開設、正しいおやつの

取立方、甘いおやつと砂糖の

害を主宰アーマに相談指導に

当たったが、もっと妊娠中の正

しい食生活と栄養管理の大切

であることを主張すべきが

本筋ではなからうかとの女角

であった。



▼米食栄養学術講習会開催

期日一月二十八日、二月三日

の二日間、会場県庁北別荘

受講者七十名

食生活の安定と食料自給力向

上の観点から十弁は供給力の

ある米について、栄養学的知

識を深めることを目的として

栄養改善の実践者である、米

食改善推進員を対象に、次の

内容で実施された。

(1) 米飯の栄養価と食生活

(2) 米の流通 (3) 炊飯の科学

(4) ライスセンターの見学

▼成人病栄養相談の開設

二月一日から七日まで実施さ

れた。成人病予防巡回行事の

一環として、果と共催で岡島

デパートを会場に、五日六日

の二日間に、高血圧の会事

心臓病の会事、相談を開設、

相談者五十七名、担当者 行

政部会員、医療部会員

計	その他	糖尿	肥満	心臓病	低血圧	高血圧	痰濁別人員
57	18	2	7	6	1	23	

計	不明	悪い	少し	普通	よい	区分別人員
57	1	5	14	21	16	

▼栄養士研修会の開催

期日三月八日、会場県庁北別

荘、受講者百十名

講習内容

(1) 乳脂固の科学、林ヤクル

ト本社学術担当課長、上山訓

由生

(2) 食糧事情と食生活の諸問

田草川豊男

石坂久美子

古屋百合子

若下久子

題 戸板女子短大 妹板文子

秋山智恵子

深沢清子

植松伸治

堀内 滋

先生

▼病態栄養技術講習会終了する

望月清江

中山文江

行政部会昭和五十一年度のありあ

山梨ヤールト株式会社講堂と

望月邦子

林 桂子

○四月十日、五十一年度の反省

会場に、二月二十九日用講以

北村 郁

中村大家

五十一年度の計画役員改選

来、用講科目二十、月二回、

小沢量子

遠藤ひろみ

○五月二十四日、栄養改善推

四十八単位、百四十四時間の

内田好子

渡木井幸子

進員養成講習会指導資料

講習が終了し、了した。

長田松子

小倉洋子

(1) テキストと解説書、(2) 調理

受講者 六十五名

石上三千子

中山カズ代

実習用献立編集、印刷

▼日本栄養公社の会費

小林正子

山本久江

ビタミンB₁と脚気について研修

次の方々が協力下さいます

三浦良子

佐藤文子

○五月二十二日、歯の衛生周

た。(一口 一〇〇〇円)

小池春美

山本賀子

間行事について、歯と健康を

梶原徳蔵

深山 武

土屋さう子

守りための栄養担当打合せ

藤巻一雄

中村栄子

中野輝子

○六月五日、歯と健康を守る

青藤正治

杉本和子

清水洋子

ための栄養相談、支部研修統

橋田貞江

早川文子

池谷敬子

一テーマについて(山交レポート)

成嶋孝枝

金子英恵

矢崎博美

○十月二十二日、食品衛生の

山田道子

鰻池幸子

兩宮ひろみ

基本的な考え方について研修

山田道子

丸山ひかり

小林町子

集団給食施設指導の検討